

7日 水曜

出エジプト

2:1 さて、レビの家のひとりの人がレビ人の娘をめぐらした。

2:2 女はみごもって、男の子を産んだが、そのかわいいのを見て、三か月の間その子を隠しておいた。

2:3 しかしもう隠しきれなくなったので、パピルス製のかごを手に入れ、それに瀝青と樹脂とを塗って、その子を中に入れ、ナイルの岸の葦の茂みの中に置いた。

2:4 その子の姉が、その子がどうなるかを知ろうとして、遠く離れて立っていたとき、

2:5 パロの娘が水浴びをしようとナイルに降りて来た。彼女の侍女たちはナイルの川辺を歩いていた。彼女は葦の茂みにかごがあるのを見、はしためをやって、それを取って来させた。

2:6 それをあけると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。彼女はその子をあわれに思い、「これはきっとヘブル人の子どもです。」と言った。

2:7 そのとき、その子の姉がパロの娘に言った。「あなたに代わって、その子に乳を飲ませるため、私が行って、ヘブル女のうばを呼んでまいりましょうか。」

2:8 パロの娘が「そうしておくれ。」と言ったので、おとめは行って、その子の母を呼んで来た。

2:9 パロの娘は彼女に言った。「この子を連れて行き、私に代わって乳を飲ませて下さい。私があなたの賃金を払いましょう。」それで、その女はその子を引取って、乳を飲ませた。

2:10 その子が大きくなったとき、女はその子



をパロの娘のもとに連れて行った。その子は王女の息子になった。彼女はその子をモーセと名づけた。彼女は、「水の中から、私がこの子を引き出したのです。」と言ったからである。

幼子の両親は、わが子をナイル川で殺すことはできず、せめてかごに浮かべておきました。どうなるかは分かりませんが、神様にゆだねたのです。それは主のみこころにかなったことです。私たちも先行きが分からないことが多いですが、できるだけのことをして、後は主に委ねてみましょう。

この幼子はモーセの名づけられ、後にイスラエル人を救う指導者となりました。彼は自分を殺そうとするエジプト王の権威のもとに成長したのです。これはサタンの策略を逆手に取ってすばらしいみわざを起こされる主の摂理によります。主を信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

